



平成16年5月 発行

(財)伏木富山港・海王丸財団
TEL 0766-82-5181
FAX 0766-82-5197

第89号

退任のご挨拶

前常務理事兼船長 篠塚 卓眞
盛春の候、ボランティアの皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。さて、私ごと、この度伏木富山港・海王丸財団常務理事（帆船海王丸船長）を辞任いたしました。在任中は公私共に格別のご懇情を賜り厚くお礼申し上げます。またこのことについて皆様に前広にお知らせする機会に恵まれず極一部の方々とお別れのご挨拶を交わしただけのような形で富山の地を去ることとなり大変申し訳なく、深くお詫び申し上げます。顧みますれば14年前、春とは云えまだ寒風の吹き残る3月、岩瀬のドックの中で鼻水を気にしながら200名余りの皆様の訓練を3本のマストを使用して3人の指導員だけで実施した光景が、今でも胸が締め付けられるような思いを伴って鮮明に思い出されます。波瀾万丈を予想させる帆船海王丸保存活用事業の開始と共に、準備段階から携わり通算すると15年の長きにわたり第二の人生を歩んで参りました。海王丸が今生きているとは云え、それまで走ってきた長い歴史の中で自然の猛威に曝されながらも自由な海を乗り越えてきた帆船としての現役時代とは異なり、管理社会の不自由な規制の中での難しさに悩みも致しましたが、自分を育ててくれた愛すべき大好きな帆船海王丸に関わり好きな事をして過ごし、楽しく幸せだった富山県での年月は長いようで短いものでした。一つ一つ思い出せば限りないほど多くの思い出を作ることができました。今、大過なくこの日を迎えることができましたことの幸福感に浸れるのも、これ偏に皆様方のお力添えの賜物と感謝申し上げます次第です。

また海王丸が今も生きている帆船としての勇姿をとどめることができるのも、走る資格と能力と気力を維持できるのもボランティアの皆様があつてのお陰です。どうかこれからも帆船海王丸をその優美な姿と共にいつまでも可愛がってください。いつか落ち着きましたら機会を作り、皆様とお会いできる日を楽しみにしています。

なお、私は郷里茨城県の土浦に退き、完全自由の身で来し方を振り返りながら充電し、何かしに残してきたものを探そうと思っ

ております。どうか今後とも相変わりがせずご芳情を賜りますようお願い申し上げますと共に、ボランティアの皆様方のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

まずは書中をもちましてお礼かたがたご挨拶申し上げます。

拝具

前総務課長 林 義雄

平成14年4月の着任以来、2年間大変お世話になりました。着任後、帆船海王丸記念財団と伏木富山港振興財団の統合（合併）に携わりました。ゴールは14年7月、大方の道筋はついてはいたものの、細部の詰めの作業で本省に振り回された覚えがあります。おまけに、並行して聞いたこともない勘定科目での決算や監査、役員会などに忙殺され、短期間に頭がパニックになるほど多くの体験をさせていただきました。

今から思えば、皆さんの展帆作業をじっくりと見ていないことが悔やまれます。財団勤務を離れたことから、これからは海王丸パークを楽しむ側になりました。機会を見て展帆作業を最初から最後までジックリと観察したいと思います。また、フリマにも出店したいと企画しておりますので、たくさんのお買いあげをお願いします。

皆様におかれましては、いつまでも帆船「海王丸」を愛し続けていただきたいと願っております。

着任のご挨拶

常務理事兼海王丸船長 河原 健

去る4月1日に篠塚船長から海王丸船長を引き継ぎました。真っ白な雪に覆われた立山連峰をバックに静かにたたずむ海王丸を久しぶりに見たときは感動が走りました。17年ぶりの乗船なのです。私にとって海王丸は特別な思い出がある練習船なのです。昭和41年（1966年）4月から商船大学卒業前に実習生で乗船し、2番ハッチ（当時の2番ハッチは、学生のロッカールームでスチールロッカーが120名分林立していました。）横の3号室“船首・スカツル側・下段ボンク”を6ヶ月間に渡り占有していました。5月12日から8月27日までの108日間の遠洋航海ではカナダ・バ

ンクーバーとハワイ島・ヒロに行きました。神戸～バンクーバーまでの35日間は、東進する低気圧の風を捕らえようと北緯40度ほどまで北上したので、風が弱い日は霧、時化た日は横殴りの雨で毎日気温は8以下、持っているもの全部を着て雨中作業着まで重ねても、セールから“ぼたぼた”落ちる冷たい雫と風で当直中は、体の芯まで冷えてしまったことを忘れられません。(市原義三1/0、望月二郎B3/0と一緒に可愛がられました。)

昭和46年(1971年)4月から2/0で2年間乗船し4回遠洋航海に行きました。うち一回は赤道付近で餅つきをしたフィジー諸島・スバにも寄港した航海でした。(正月を挟む遠洋航海は余り経験できません。また、昭和46年1月に結婚して初めての遠洋航海でしたので、すごく長く感じ、再会したわが子を抱き上げようとしたら泣かれたことを忘れられません。この時期は遠洋航海が嫌いでした。)

昭和61年(1986年)4月からC/0で1年間乗船しました。昭和59年に就航していた日本丸2世は当時最新鋭船で、船内は冷暖房が完備し蛍光灯が隅々を照らしデッキは不夜城のようにライトをつけた上にイルミネーションまでしていました。それに反し、わが海王丸は代船建造のめどが立たなかった時期で、船内は字が見える程度に薄暗く、暑いときは暑く寒いときはあくまでも寒く自然換気が頼りの最古参船でした。ホノルルで両船が並んで停泊していたときなど、日本丸では、皆冷房の利いた船内に引きこもり、デッキライトとイルミネーションが輝やくデッキに人影は無く、かたや海王丸では、暑い船内を避けて風の通るオーニングの下で“肩振り”をする乗組員や実習生をよく見かけました。またイルミネーション点灯の要請があった時は、数少ない冷房機を止め船内照明までも消灯しなければならぬほど電力不足で、両船の居住環境格差は有りすぎました。これらのことを考慮した航海訓練所は、環境改善と代船建造までの延命のため大規模な修繕工事を海王丸に施すことにしました。腐食の激しかった水線付近の外板を船首から船尾までべりり新替えし、居住環境改善のため実習生と乗組員居住区の各室間隔壁新替工事(合板に変えたので、隣の部屋の明かりが漏れなくなりました。)などを実施しました。これらの大工事を担当したので、遠洋航海出港前は膨大な工事仕様書作成、帰港後はまっすぐ造船所に直行し、思い切りよくたくさんの居室を打ち壊し、鋼外板や甲板を切り刻み、新しい鋼板を打ち付け、つなぎ目のホーステスト(リベットでつないだ箇所から、漏水しないことを鉋一本一本にホースで水をかけながらする検査)を夜の夜中までし、最後にきれいな合板で隔壁を取り付けたことなど昼夜兼行で行った

工事監督を忘れられません。

旧日本丸、新日本丸そしてほかの練習船にも乗りました。海王丸乗船期間が特に長くはありませんが、私のMother-shipは海王丸です。苦楽を共にし、たくさんのごことを教わり、私を育ててくれた船なのです。

これから皆様と総帆を展帆し美しい姿を人々に見ていただき、いつまでも美しく健康な海王丸を維持する仕事をしたいと考えています。引き続き、皆様のご協力とご支援をお願いします。

総務課長 春山 和則

以前にも県から財団に派遣されたことはあるのですが、不慣れな仕事で戸惑いの毎日です。皆さんに支えられながら何とかやっています。すばらしい環境にありながら、そのすばらしさに触れる余裕もない自分に不甲斐なさも感じています。早く、海王丸パークに身も心も馴染んでいけたらと思っています。

海事課技師 五島 聖司

はじめまして!4月1日から海事課技師を拝命いたしました五島(ごしま)です。海王丸では二等航海士の職務に就きます。昭和49年10月22日生まれ、九州の小倉に生まれ幼少期は福岡市で過ごしました。中学を卒業後、愛媛県にある弓削商船高専に進学し5年半の課程を修了後、神戸商船大学に編入学。平成10年に航海訓練所に就職いたしました。血液型はO型、性格は内気で(嘘)やんちゃ。妻一人、子一人(8ヶ月、超かわいい男の子)の家族構成です。趣味はバイク。これに最近は育児が加わって陸上勤務を楽しみながら過ごしております。4月3、4日に早速、ボランティア再訓練、4月25日と5月5日の総帆展帆に参加いたしました。皆様の帆船に対する情熱と若々しさに大変感銘を受けました。前任者同様よろしくお願いいたします。

海事課技術員 笠置 雅志

はじめまして。4月より海王丸へ着任しました笠置です。生まれて初めて来た富山県は広大な自然があり、暖かい人間性がありで私にとって、とても馴染みのあるところのように感じました。というのも私が生まれ育った地は自然の宝庫である北海道だからです。幼少の頃から草木に触れ、そして冬の寒さで鍛えられました。草木に触れていて毛虫に刺されてから虫が大の苦手になりました。冬期、毎晩毎朝の雪かきのお陰で雪が好きではなくなりました。というのは冗談です。富山県にいられる間にうまい魚とうまい酒をたらふく吸収して育っていきたいと思っています。海王丸でいろいろな知識、技術を身につけること、そして海王丸を美しく保つために頑張りますのでよろしく申し上げます。

4・5月の行事について

新規ボランティア養成訓練

4月10、11日に新規ボランティア養成訓練を行いました。以下の11名の方が参加されました。

佐野	雄一郎	さん
白田	和吉	さん
直井	洋一	さん
長久	昇	さん
奥田	健	さん
原	正美	さん
南	謙次	さん
大納	武	さん
松島	武	さん
釣	與悦	さん
四ツ倉	知里	さん

内8名はすでに総帆展帆に参加され、新たな海王丸ボランティアが誕生しました。初めての事はどなたでも不安があるものです。ささやかな問いかけなどさりげないご支援をお願いいたします。

ボランティアの集い

4月17日、ボランティアの集いがホテル第一イン新湊にて行われました。ボランティア70名が参加され、久々に再開した仲間と話が弾み、恒例のビンゴゲーム等で大いに盛り上がりました。今年も総帆展帆、甲板作業等に頑張りましょう。

船体塗装工事

4月12日から23日の間、船体外板・展示マスト・ヤード等の塗装を実施しました。再び光沢のある船体を取り戻した美しい海王丸に是非会いに来てください。

4月25日 総帆展帆

今年度第一回目の総帆展帆は、快晴で多少の寒気が吹くなか、美しい姿を来客に披露することができました。冬を越しての海の貴婦人同様に、展帆に参加されたボランティアの方々も大変輝いていました。

天候：晴れ 参加人数77名 展帆状態：ポートタックシャープアップヤーズ

5月5日 総帆展帆

風は多少弱いものの、前回と同じような寒さの下で行われましたが、大きなトラブルもなくスムーズに作業が行われました。

天候：曇り 参加人数76名 展帆状態：スターボードタックシャープアップヤーズ

新規ボランティア養成訓練

5月22日、23日に新規ボランティア養成訓練を行います。現在2名の方が訓練を心待ちにしています。

6月・7月前半の行事予定

総帆展帆

晴れの日にはようやく暖かいといえる季節になってきました。基本に立ち返って安全に楽しく、操帆作業を行いましょ。

日時： 6月6日(日)
7月4日(日)
午前10時～(受付は9時から)
場所：更衣：研修室
集合：第一教室
その他：返信はがきに参加・不参加の記入をお願いします。

登しょう礼について

登しょう礼とは、船で行う最高の儀礼のことで、帆船ではヤードに人を配置して行います。来る7月19日に実施を予定しています。その準備として、6月6日(日)総帆展帆日の昼休みに配置調整を行い、6月13日(日)午後に立付け(ヤード上での配置確認及び通し練習)をします。(立付け予備日は6月27日(日)午後)参加ご希望の方は同封の返信はがきにて調査しますので、希望する配置等の記入をお願いします。

新規ボランティア養成訓練

7月10日、11日に新規ボランティア養成訓練を行います。みなさんの周りで海王丸ボランティアに興味のある方などいらっしゃいましたら、海事課までお知らせください。新規加入者を募り、船・海などが大好きな仲間を増やしていきましょう。

お知らせ

探鳥会のご案内

日時：5月23日(日)
午前8時30分～10時30分
場所：海王バードパーク
(海王丸パーク内)
集合：観察センター1F ピロティ
参加費：無料

お問い合わせは財団総務課まで

大阪市の帆船「あこがれ」が寄港



スケジュール

6月15日(火)午後5時 新湊入港
19日(土)一般対象1日コース
20日(日)セイルドリル・一般公開
24日(木)午前10時 新湊出港

参加者募集のお知らせ!!

一般対象1日コース(伏木港~伏木港)
日時: 6月19日
午前9時30分~午後4時
対象: 10歳以上の青少年及び保護者、
教育関係者
定員: 60名(申込先着順)
参加費: 小・中学生 1300円
18歳まで 1800円
19歳以上 2300円

セイルドリル/船内一般公開(新湊)

日付: 6月20日
セイルドリル: 午前10時~12時
一般公開: 午後1時~午後4時30分
参加者: 10歳以上の男女及び保護者
定員: 40名(申込先着順)
参加費: 無料

お申込み・お問い合わせ先

セイル大阪 〒559-0034 大阪府大阪市
住之江区南港北2-1-10
ATCビル0's 636
電話: 06-6615-5383 fax 06-6615-5384
E-mail: sail@akogare.or.jp
URL: http://www.akogare.or.jp

なお、上記の6月20日に岸壁警備ボランティアを10名程度募集しています。ボランティアをしていただける方は財団海事課までお知らせください。

カッター・セイリング教室参加者募集!

実施日: 6/20、7/25、10/16
いずれの日も、午前9時~12時
若しくは、午後1時~4時
参加資格: 小学校4年生以上。

今年から午前・午後に分けて実施します。初心者大歓迎!多数のご参加お待ちしております。詳細は海事課まで。

「SPLICING THE MAIN-BRACE」及び「質問コーナー」は、紙面の都合により、お休みさせていただきます。

危険予知トレーニングvol.6

前回88号vol.5の答え

1. 船体動揺でバランスを失い、墜落する。
2. 荷物が開口部に引っかかり落下し、下の人に当たる。
3. 開口部に荷物が引っかかったとき、ワイヤーが外れ荷物が落下し、下の人に当たる。
4. ワイヤーが切れて、荷物が落下し、下の人に当たる。

下のイラストにはどんな危険がひそんでいるでしょうか?考えてみましょう。



両手に物を持ち、歩み板を渡っている。

答えは次号で!

(船員災害防止協会刊:商船KYTイラストシート集シート94より抜粋)

終わりに

今年始めに行った二度の総帆展帆では順調なスタートができました。海王丸は高齢であるものの、こんなに多くの方々に触れられ、愛された船は他に無いのではないのでしょうか。今年は、年間11回の総帆展帆が予定されています。皆様の変らぬ愛情を海王丸に注ぎ、安全・円満に作業をしていきましょう。(ごっしー)